

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像音響科 2 年

科 目 名	キャリアガイダンス(688)				教 科 区 分	一般教育科目
					必修 / 選択	必 修
担当教員	大内 香那子・曾我部 進				実 務 経 験 内 容	
					[大内]求人情報会社にて採用コンサルティングに従事したのち、企業人事として多くの学生の選考に携わった後、キャリアコンサルタント・研修講師として活動を行っている。キャリアデザイン・ビジネスマインドセット・コミュニケーション活性を専門としており、これらの経験を活かして本授業の将来を考え、就活に前向きになるしくみを構築している	
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
	-	2	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
仕事をしていく上で必要となるビジネススキル向上を目的とするとともに、就職活動がスムーズに進めることができるよう、様々な準備を行う。社会人として求められる最低限のコミュニケーション能力と、社会人として持っているべき常識および、ふさわしい行動をとれる能力を身につけていく。						
授業形態	演習	教 室	342 教室	補助教員	なし	
就職活動がスムーズに進めることができるよう、様々な準備を行う。社会人として求められる最低限のコミュニケーション能力と、社会人として持っているべき常識およびやふさわしい行動をとれる能力を身につけていく						
教 科 書 教 材	仕事力を身に付ける 20 のステップ FOM 出版 富士通エフ・オー・エム株式会社 著 (毎授業で使用)					

授 業 計 画 ・ 内 容	
●授業時間：2 単位時間/回	
【前期】	
1～2 回	授業の目的と振り返りシートの理解、就職活動への意識を高める
3～4 回	就活とコミュニケーションのつながりを理解する、挨拶の大切さ①
5～6 回	意見をつくる個人ワーク
7～8 回	意見交換実践のグループワーク
9～11 回	自己理解、仕事理解、グループでの調べワーク
12 回	グループワークを活かし、専門学校での学びのつながりを考える
13～14 回	自己 PR が必要な理由
15 回	自己 PR 作成ワーク
16 回	前期の振り返りと自己 PR 作成の好事例共有 → 修正してみよう
●授業時間：2 単位時間/回	
【後期】	
1 回	社会人とは・学校と職場の違い、学校での過ごし方で意識すべきこと、挨拶の大切さ②
2 回	組織内でのコミュニケーションにつながる学校内での過ごし方
3 回	グループ制作と発表（プレ社会人としての、学校での過ごし方の工夫）
4 回	就活スケジュール確認と先輩への質問を考えるワーク、グループワークの説明
5～7 回	就職活動トークセッション、グループ制作と発表
8 回	ビジネスマナーってなんだろう
9 回	正しい敬語を身に付けて、就活シーンに活かそう
10～11 回	履歴書とエントリーシートの書き方、応募書類の書き方
12～14 回	面接官は何をみているのか、面接で自分を表現する準備をしよう、面接体験をしてみよう
15～16 回	1 年間での成長変化・卒業後どうなっていたいか、考えよう ガクチカを作成しよう

評価コード	11	
評価方法	・100 点を満点とし、筆記試験を 60 点、平常点（出席および受講の状況）を 40 点の配点とする。 ・通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。 ・成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。	

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像音響科 2 年

科 目 名	プレゼンテーション(541)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担当教員	山田 慎				実 務 経 験 内 容	
					【山田】ゲーム会社在籍時に企画部署に所属しており、プロデューサーの補助者としても IP ビジネスに関係。独立後も多くのプロジェクトに参加しており、本校専任教員となるまで、ゲームビジネスの実務と関わってきた。2020 年以降は行政書士として法実務に携わっている。	
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標	
	-	4	-	-		
イベントや映像作品の企画・制作において、実践的な企画書作成のスキルを習得する。さらに、作成した企画書を人前で効果的にプレゼンテーションする能力を養う。単に発表するだけでなく、発表内容を継続的に改善し、より高度なレベルへと高めていくことを目指す。						
授業形態	演習	教 室	342 教室	補助教員	なし	
プレゼンを作成し、人前でプレゼンテーションを 1 人 1 人にさせて、行えるようにしていく						
教 科 書 教 材	なし					

授 業 計 画 ・ 内 容		
●授業時間：2 単位時間/回 【前期】 1～ 8 回 プレゼンテーションの基本 9～ 16 回 伝えるための表現法 17～28 回 プレゼンテーション資料の制作 29～32 回 発表 ●授業時間：2 単位時間/回 【後期】 33～40 回 情報の選別 41～48 回 プレゼンテーション資料の制作 49～56 回 発表 57～64 回 説明と描写		

評価コード	11	
評 価 方 法	・100 点を満点とし、筆記試験を 60 点、平常点（出席および受講の状況）を 40 点の配点とする。 ・通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。 ・成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。	

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像音響科 2 年

科 目 名	文章論 (916)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担当教員	川崎 慎也				実 務 経 験 内 容	
					[川崎]長年シナリオライターとして携わってきた経験を活かし、シナリオなどの文章の実作技法を指導する。	
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
	-	2	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
イベント制作や映像制作の現場で必須となる企画書や台本といった多様な文章作成スキルを習得する。それぞれの分野で求められる専門的な表現方法や、目的に応じた文章構成力を養い、実践的なアウトプットができるようになることを目指す。						
授業形態	講義	教 室	342 教室	補助教員	なし	
映像業界のシナリオを作成できるまでの知識を基本的に講義形式で行っていく。必要にときに課題を提示し、課題を作成していく。シナリオを最終的に各自で作成させ、提出させる。						
教 科 書 教 材	なし					

授 業 計 画 ・ 内 容

●授業時間：2 単位時間/回 【前期】 1～ 4 回 言語表現の基礎 5～ 10 回 文章の実作技法 11～16 回 シナリオ作成の基礎 ●授業時間：2 単位時間/回 【後期】 17～18 回 前期の復習 19～24 回 シナリオ作成の応用 25～32 回 各テーマに基づいた企画書類作成						
--	--	--	--	--	--	--

評価コード	3	
評価方法	・定期試験（100 点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点（出席および受講の状況）を 20 点の配点とする。成績の評定は、S（90～100 点）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、F（60 点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定が F の場合、追試験を受験する。 ・追試験（100 点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の 6 に 60 点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。 ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1 点未満については切り上げ）を成績の評定とする。	

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像音響科 2 年

科 目 名	情報メディア(771)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担当教員	曾我部 進				実 務 経 験 内 容 なし	
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
	-	2	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
映像・音響・照明の専門スタッフとして活躍するために、情報技術に関する知識は不可欠である。特にコンピュータに関する深い理解を深めることで、進化し続ける最新の機材やシステムにも柔軟に対応できるようになる。この学びを通じて、将来の現場で求められる実践的な対応力を養うことを目標とする。						
授業形態	講義	教 室	342 教室	補助教員	なし	
前半は映像音響処理技術者試験、サウンドレコーディング技術認定試験の対策授業を行う。 後半は各資料を配布しながら、授業を行っていく。						
教 科 書 教 材	2025 映像音響処理技術者資格認定試験問題集 日本ポストプロダクション協会（授業内で適宜使用） 2025 サウンドレコーディング技術認定試験問題集 日本音楽スタジオ協会（授業内で適宜使用）					

授業計画・内容

●授業時間：2 単位時間/回

【前期】

- 1 回 前期授業について説明
 2～3 回 映像音響処理技術者試験 対策①
 4～5 回 映像音響処理技術者試験 対策②
 6～7 回 映像音響処理技術者試験 対策③
 8～9 回 サウンドレコーディング技術認定試験 対策①
 10～11 回 サウンドレコーディング技術認定試験 対策②
 12～13 回 サウンドレコーディング技術認定試験 対策③
 14～16 回 前期復習、前期まとめ

●授業時間：2 単位時間/回

【後期】

- 17～18 回 前期の復習
 19～20 回 社会とコンピュータの関わり合い
 21～22 回 情報リテラシーについて
 21～24 回 エンターテインメント・クリエイティブ業界で気を付けなければならない情報セキュリティ
 25～26 回 収録メディアの種類
 27～28 回 将来の機材の展望
 29～30 回 機材間のネットワークの基礎知識
 31～32 回 後期まとめ

評価コード

3

評価方法

- ・定期試験（100 点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点（出席および受講の状況）を 20 点の配点とする。成績の評定は、S（90～100 点）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、F（60 点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定が F の場合、追試験を受験する。
- ・追試験（100 点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。
 - （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の 6 に 60 点を加えた点数とする。
 - （2）上述（1）以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。
- ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1 点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像音響科 2 年

科 目 名	コンピュータ実習 2 (918)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担当教員	吉廣 萌				実 務 経 験 内 容	
					[吉廣]ブライダル関係の動画制作を行っており、その業務の一環として、画像・映像の編集を行っている。これらの知識を活かし、コンピュータ実習を指導する。	
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
	-	4	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
デザインおよび映像制作に不可欠なプロフェッショナルツールである Adobe Photoshop、Illustrator、Premiere Pro、After Effects の習得を目指す。これらのソフトウェアを使いこなすことで、創造的なグラフィックデザイン、質の高い映像編集、そして高度なモーショングラフィックス制作など、幅広いクリエイティブな表現が可能となる。						
授業形態	実習	教 室	342 教室	補助教員	なし	
パソコンおよびソフト操作の基本理解をテーマに授業を行う。前期と後期の期末時に習熟度を確認するための課題を行う。						
教科書 教 材	Premiere Pro & After Effects いますぐ作れる！ムービー制作の教科書[改訂 3 版] 技術評論社 阿部信行 著（授業内で適宜使用）					

授業計画・内容		
●授業時間：2 単位時間/回 【前期】 1～4 回 前期授業進行説明、パソコン基本操作解説、Adobe ソフト基礎解説 5～8 回 Photoshop、Illustrator の基本操作解説 9～12 回 写真加工合成 13～16 回 写真切抜き 17～20 回 名刺、ショップカード作成 21～24 回 チラシ、ポスター作成 25～28 回 印刷出稿データ作成 29～32 回 前期まとめ、課題 ●授業時間：2 単位時間/回 【後期】 33～36 回 後期授業進行説明、動画制作基礎解説 37～40 回 Premiere Pro、After Effects の基本操作解説 41～44 回 Premiere Pro で動画編集 45～48 回 Premiere Pro で合成を取り入れた動画編集 49～52 回 Premiere Pro でテロップと BGM を取り入れた動画編集 53～56 回 After Effects で動画編集 57～60 回 Premiere Pro と After Effects の連携性、データ作成解説 61～64 回 後期まとめ、課題		

評価コード	13	
評価方法	・100 点を満点とし、授業時間内における実技技能を 60 点とし、平常点（出席および受講の状況）を 40 点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。	

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像音響科 2 年

科 目 名	映像制作(165)				教 科 区 分	専 門 教 育 科 目
					必修 / 選択	選 択
担当教員	富田 正樹・石黒 誠・森田 紗季				実 務 経 験 内 容	
					[富田]放送業界で経験して培った知識・技術を活かし指導する。 [森田]イベント業界で経験して培った知識・技術を活かし指導する。	
週 授 業 時 間 数	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次		
	-	12	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
映像業界での活躍を目指すために、企画立案から撮影、そして編集に至るまで、映像制作の全工程を一貫して実践的に学ぶ。この実習を通じて、各工程における運用の流れや専門的な知識を習得するだけでなく、実際に制作に取り組む中で直面する課題を乗り越える力や、その難しさへの理解を深める。 また、円滑なプロジェクト進行のためには、スタッフ間や撮影対象者との密な打ち合わせが不可欠であり、そのため、授業を通して効果的なコミュニケーション能力を向上させることも、重要な目標の一つである。						
授業形態	実習	教 室	342 教室・ NKC イベントホール・ A スタジオ		補助教員	なし
本科の特別実習を通して、学生自らがその撮影方法を考え、映像制作ができる制作・技術を実践していく。 企画から完成までの過程に関わっていく。						
教 科 書 教 材	なし					

授 業 計 画 ・ 内 容	
●授業時間：2 単位時間/回 【前期】 1～ 10 回 前期授業について説明 11～32 回 学生提案案件 1 計画 33～54 回 学生提案案件 1 実施 55～76 回 学生提案案件 1 報告 77～90 回 学生提案案件 2 計画 91～104 回 学生提案案件 2 実施 105～118 回 学生提案案件 2 報告 119～128 回 まとめ ●授業時間：2 単位時間/回 【後期】 129～138 回 後期授業について説明 139～148 回 学生提案案件 3 計画 149～158 回 学生提案案件 3 実施 159～180 回 学生提案案件 3 報告 181～202 回 全案件 改善・報告 203～220 回 全案件 実績報告書作成 221～242 回 全案件 実績報告書発表 243～256 回 まとめ	

評価コード	13
評 価 方 法	・100 点を満点とし、授業時間内における実技技能を 60 点とし、平常点（出席および受講の状況）を 40 点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像音響科 2 年

科 目 名	イベント制作(780)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	選 択
担当教員	曾我部 進・森田 紗季・酒井 早穂・ 石川 麻子				実 務 経 験 内 容	
					[森田]イベント業界で経験して培った知識・技術を 活かし指導する。 [酒井]イベント業界で経験して培った知識・技術を 活かし指導する。 [石川]イベント業界で経験して培った知識・技術を 活かし指導する。	
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
	-	12	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
イベントを企画・実現するために必要な全ての工程を実践的に学びます。具体的には、イベントに対するプランニングから会場視察、そして前日の準備から当日の設営、本番の運営・撤収、後日の格納・メンテナンスに至るまで、実際の流れを体験することで、イベント制作の具体的な方法とノウハウを習得していく。						
授業形態	実習	教 室	342 教室・ NKC イベントホール・ A スタジオ		補助教員	なし
本科の特別実習を通して、学生自らがそのイベントの運営方法を考え、実行していく。 場合によっては企画からイベントに関わっていく。						
教 科 書 教 材	なし					

授 業 計 画 ・ 内 容		
●授業時間：2 単位時間/回 【前期】 1～10 回 前期授業について説明 11～32 回 学生提案案件 1 計画 33～54 回 学生提案案件 1 実施 55～76 回 学生提案案件 1 報告 77～90 回 学生提案案件 2 計画 91～104 回 学生提案案件 2 実施 105～118 回 学生提案案件 2 報告 119～128 回 まとめ ●授業時間：2 単位時間/回 【後期】 129～138 回 後期授業について説明 139～148 回 学生提案案件 3 計画 149～158 回 学生提案案件 3 実施 159～180 回 学生提案案件 3 報告 181～202 回 全案件 改善・報告 203～220 回 全案件 実績報告書作成 221～242 回 全案件 実績報告書発表 243～256 回 まとめ		

評価コード	13	
評 価 方 法	・100 点を満点とし、授業時間内における実技技能を 60 点とし、平常点（出席および受講の状況）を 40 点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。	